

いなほ

4

Vol.55

発行所 社会医療法人凌雲会・社会福祉法人凌雲福祉会/板野郡藍住町笠木字西野50-1/☎(088)692-5757

2018年1月1日より「社会医療法人 凌雲会」として 新たにスタートいたしました!!



のへき地診療(徳島県南部)を平成27年10月より担当させていただいております。現在、凌雲会は稲次病院、介護老人保健施設昂、サービス付き高齢者向け住宅メディシオン凌雲(藍住)・名東町・万代町(3ヶ所)、グループホーム親の家、小規模多機

社会医療法人は都道府県の医療計画に基づき地域で確保していくことが必要な救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周生期医療、小児救急医療などを担う公益性、公共性の高い公益法人の一つです。私どもは、そのうち

りました。これもひとえに、地域のみなさまや医療、介護、福祉関係者の皆様をはじめとする多くの方々からの支援の賜ものであり、深く感謝申し上げます。



社会医療法人 凌雲会
理事長 稲次 正敬

私どもの法人は2018年1月1日付けで徳島県知事から社会医療法人の認定をうけ「社会医療法人 凌雲会」として新たなスタートを切

能ホーム親の家・名東の家・万代の家・藍住の家(計4ヶ所)を運営しており、職員数は300名を超える規模となっております。

また、一昨年の8月より、病院の増改築工事を終え、

一般病棟23床、回復期リハビリテーション病棟44床の合計67床の病院として、リニューアルオープンいたしました。社会医療法人化に伴い、医療機関名も「稲次病院」と名称変更し、整形外科やリハビリテーションのみならず、現在も診療しております内科、形成外科、脳神経外科、神経内科等もより力を注いで参りたいと考えております。

引き続き関連法人の社会福祉法人 凌雲福祉会を含め、医療・介護・福祉を通して私どもの基本方針である「患者さま、利用者さまが受けて良かったと思える医療・介護・福祉の提供」を極めていけるよう職員一同精一杯努力して参ります。引き続き皆様の暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



稲次病院 1F 待合ホール

稲次病院にロボットスーツHAL®導入！



稲次病院
リハビリテーション部
課長 土井 大介

今年2月、稲次病院リハビリテーション部に「ロボットスーツHAL® 医療用下肢タイプ」を導入しました。HAL®とは、足に装着して歩行機能を改善するための治療用のロボットです。筋ジストロフィー等8つの神経・筋難病の患者さんのために使用します。

HAL®は世界初の機能改善治療用ロボットです。「治療用」とは、ロボットを外しても装着前より機能が改善されていることを意味します。このHAL®の原理をご説明します。ヒトは運動をしようとするとき、脳から神経を通じて、筋肉に動かそうという信号（電気信号）を送ります。この信号は微弱な生体電位信号として、皮膚表面に漏れ出てきます。HAL®は皮膚に



貼り付けた電極からこの生体電位信号を検出し、意思に従い足を動かしてくれます。

疾患により足をうまく動かせない方でも、わずかな生体電位信号が検出できればHAL®のアシストにより思い通りの運動を実現できます。HAL®は患者さんの筋力や能力に合わせて様々な設定を行うことができます。HAL®を使用し、治療で最も効果的なポイントは身体に負担をかけずに反復運動が可能など、運動を繰り返すことにより、脳神経系の繋がりが強化・調整され、身体機能の改善・再生が促進されます。このHAL®を使って少しでも皆様のお役に立てればと思っています。

小規模多機能ホーム藍住の家

オープンしました!!



2012年2月1日より6年間、地域の方々にご支援いただきながら運営しております「社会福祉法人小規模多機能ホーム第2藍」が、この度の介護保険法改正に伴い、より一層充実し地域に根ざした事業所となる



べく、2018年4月1日より「社会医療法人小規模多機能ホーム藍住の家」として新たにスタートいたしました。小規模多機能型居宅介護は介護認定を受けた高齢者の「通い・訪問・宿泊」サービスを柔軟に組み合わせ支援を提供しています。小規模多機能ホーム藍住の家で宿泊室を4室から9室へ増やし、今まで以上にご利用者のニーズに柔軟に対応できるようにしました。ご利用者が住み慣れた地域の中で暮らし続けられるよう、地域とのつながりを絶やさず交流も行っていきたいと考えています。リニューアルした当事業所ですが、職員一同、ご利用者・ご家族に受けてよかったと思っていただけのサービスの提供に努め、笑顔あふれる事業所でありたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

小規模多機能ホーム藍住の家

管理者 上村 佳乃子



コグニバイク



脳トレプリント



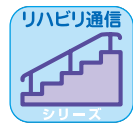
音楽療法

①二重課題…在宅でのエクササイズとして歩行中に頭の中で逆算。(100から3を0になるまで引いていく)運動への不安感がある方

認知症とは老化や病気等様々な原因によって記憶や思考などの認知機能の低下が起こり、生活に支障をきたす状態です。
誰もがなる可能性のある認知症ですが、日常生活を送る上で予防を行う事が可能といわれています。簡単にできる予防法として①二重課題(くしながら運動する)と②記憶の想起があります。



稲次病院
リハビリテーション部
高田 晃彦



シリーズ
Vol.22

知っておくと得をするリハビリの話
— 今日からできる認知症予防について —

は、いす座位での足踏み運動中(爪先・踵上げ)に手指の運動や脳トレプリントを実施する方法もあります。

②記憶の想起…地域活動や老人会等に参加して他者交流を図り、昔の事を思い出して言葉にしたり、相手の話を聞いて刺激を受ける事で脳を活性化し、活動性・集中力の向上や自発語の増加が促され、認知症予防につながります。

デイスサービス昇では音楽療法等のイベントやマシンを使用し、セラピストが指導を行いながら認知機能低下予防を図っています。運動や他の人との会話などの身体活動や地域社会と関わる機会を増やし、楽しみを持ちながら認知症予防を行っていきましょう。



シリーズ
Vol.23

介護保険サービスの紹介
— 介護報酬改定について —



昇 居宅介護支援事業所
宮繁 知華子



こちらで介護支援専門員として仕事をさせていたただくようになって1年があつという間に過ぎました。今年には診療報酬・介護報酬の同時改定の年となっています。居宅介護支援に関係することを一部紹介します。

① 居宅介護支援の提供の開始にあたり利用者様に対して、入院時に入院先のスタッフに担当の介護支援専門員の氏名等を伝えてもらうように依頼する。

② 医療系サービス(訪問リハビリ・訪問看護等)の利用を希望する場合は主治医に意見を求めるとともに意見を踏まえて作成したケアプランを

交付する。

③ 薬が服用できていない、食事が十分にとれていないなど利用者の心身に関する情報を得た場合は必要に応じて主治医や薬剤師に情報伝達を行う。

④ ケアプランに位置付ける居宅サービス事業所について、複数の事業所の紹介を求めることが可能であることや当該事業所を位置付けた理由を求めることが可能であることを利用者様に説明することなどが義務づけられました。

主治医・介護支援専門員・関係事業所が

在宅生活での状況をより詳しく把握することにより利用者様の生活の質がより向上されるための改定内容となっています。



「いざ・トレin陸前高田」に参加して

2月14日から16日までの2泊3日、岩手県陸前高田市で、被災体験の研修があり、当グループから4名が参加してきました。この日の陸前高田市の日中の気温は、奇しくも東日本大震災の日、7年前の3月11日と同じ気温2度、小雪の舞う中でした。

今回の企画を運営された方のもとで、実際に被災された方で、その生々しい体験を聞くことができ、当時の映像記録も見ることができ、ニュースで見たよりも、もっと悲惨な現状が映しだされ、これから2日間、「3・11と同じ体験をするんだな」と不安でいっぱいになりました。様々な体験談を聞きながら、感じることは「寒い、とにかく寒い！」です。

いつしか日は暮れ、気温はますます下がっていきます。その中で、



炭火を使って冷凍食品の夕食です。当時は被災者の中に冷凍食品を運ぶ途中にこの避難所に逃げ込んできた配達業者さんに積み荷を提供してもらったといえます。小さな明かりのみでは、食材が焼けたかどうかかわかりません。

お腹感など到底感じられないままに夕食は終了。すぐさま夜の寝床、テント設営です。その夜は

テントで就寝でしたが、ヒートテックやダウンを着込んで寒さで眠れません。横になると地面からすべての体温を奪われるように体が冷えていきます。その夜は結局寒さで一睡もできずに、一晩中震えながら過ごしました。

朝、6時にラジオ体操のあと待ちに待った朝食…と言いたところですが、キンキンに冷えた水とパンのみ。芯から冷えた体は、冷えた水を受け付けなかったのですが、このままでは脱水になると無理やり喉に流し込みました。

そのまま2日目のプログラムに突入。段ボールを使った活用法や災

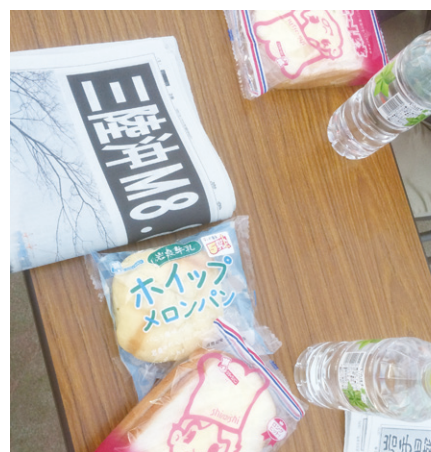


害が起こった時にチームリーダーとしてどのような判断を下すかなど、話し合いが行われました。

そして昼食は自衛隊による炊き出しです。この時現地に入って初めて温度のあるものを口にしました。涙が出そうなおいしかったです。これまで当グループでも災害

対策と称して様々な訓練を行ってきました。しかしこの体験を通じて、災害というものを舐めていたな、と恥ずかしく思いました。災害時だから寒いくらいは我慢しなきゃ、食事だって食べられるだけで幸せだと思わない、なんて他人事みたいで考えていたと振り返ります。そうではなく、災害時だからこそくつろげる寝床や、温かい食べ物が必要なんだと考えるようになりました。

その後3月12日岩手日報の鹿糠（かぬか）敏和記者が来院され、当時の生々しい映像をスタッフに見せてくれました。鹿糠記者も震災当日、ビルの屋上に避難し、流されてきた方の救助に当たったと言います。当時10日間も記憶をなくしたと話され、



その精神的なストレスは想像を超えたものでした。

災害は防ぐことはできませんが、被害を最小限に止めることはできます。今回の体験を通じてもっと深く考えなければいけないと感じました。最も強く心に残ったものは、『災害対策はどれだけ災害を自分事として考えられるかどうか』だということです。

近々南海トラフ大地震が来ると言われており、その時どのような行動をするか、日頃より真剣に考えなければなりません。そしてこの体験を教訓に、当グループでの災害対策をもう一度見直そうと考えています。

《いざ・トレin陸前高田参加者》

土井 大介・萩原 浩貴
森 裕美・湯浅 智恵子

橘タニ子様

(昴)

祝!
100歳

大正7年2月1日鳴門の北灘で生まれ、育ったため泳ぎは達者で、病気もせず、小学校6年間皆勤賞を貰ったそうです。



若い頃 家業のお店を手伝い、白菜、ネギなどの野菜を作っていたそうです。また、他の入所者さんと楽しくお話したり、以前働いていた職員も、橘さんに会いに来たりするほど、職員からも慕われています。これからも、お元気でお過ごしください。



小林フサ子様

(現・藍寿苑)

この度、老人の日にあたって内閣総理大臣表彰を受けられ、総理名代として徳島市役所の方より表彰状と記念品が贈られました。

メデイション凌雲のスタッフやご家族も立ち会い、ご本人は突然の事に驚かれた様子でしたが、じつくりと表彰状を眺められ周囲の祝福に領いて応じられていました。

小林さん、これからもお元気にお過ごしください。



キッズシリーズ Vol.18

ちびっこ園



暖かな春の日差しに包まれてちびっこ園では25回目の卒園式が行われました。今年卒園した4名の卒園児は、とても思いやりがあつて小さい子の面倒やお手伝いを進んでしてくれる心の優しい子ども達でした。緊張の中、大きな声で返事をして証書を受け取る姿や、手話や歌を一生懸命歌う姿に様々な思いが込み上げ、そんな頼もしい子ども達の成長を間近で感じながら過ごせたことを嬉しく誇りに思えた式となりました。

ちびっこ園

村部 和代



☆卒園おめでとう☆

キッズルーム
りょううん

『はい!』と元気いっぱい返事でスタートした今年の卒園式。キッズルームでは、保護者に加え、デザイナーズの利用者さんも見守る中3名の子ども達が卒園しました。

人懐っこく明るい性格の3名は、緊張を感じさせない堂々とした姿で証書を受け取ったかと思うと、時々保護者席に笑顔で手を振り周りを和ませていました。利用者さんからは歌のプレゼントを頂くなど、みんなに祝福され笑顔溢れる素敵な卒園式となりました。

キッズルームりょううん
武田 千寿



認知症サポーター養成講座を行つて

私たち凌雲グループでは、グループ内有志のスタッフで構成したメンバーで、地域に向けた認知症啓発活動として認知症サポーター養成講座を行っています。

今回、サポーター養成講座を行いました。藍住北小学校の児童の皆様よりお礼のお手紙をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

私たちの活動は、特別なことをするものではありません。認知症の方のケアという専門的な勉強が必要なのはありますが、しかし、どんなことがあっても認知症があっても、困っている人を一生懸命助けよう・支えようという気持ちがあればなんともなりません。

認知症の人と接するときの心得や対応のポイントなども講座では紹介していますが、根本としては、認知症サポーターとは「なにか」特別なことをするのはなく、さりげなく援助できる「心

杖」になりサポートすることです。私たち、養成講座を行ったメンバーも、児童の皆様が熱心になら認知症の人の「心の杖」になるか、一生懸命考えていた姿をみて、学ぶことがたくさんありました。

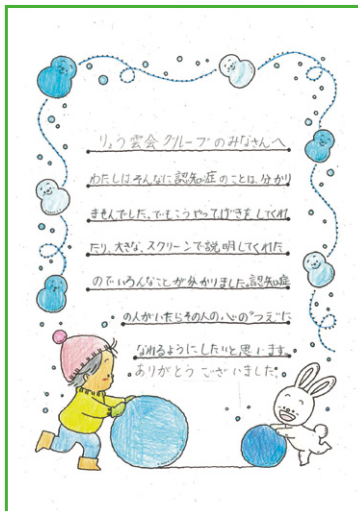
地域の中に、認知症の人を支える「心の杖」が増えることで、安心して暮らせる町をめざし、これからも活動を続けていきたいと思います。

グループホーム親の家

ホーム長 福富 郁代



藍住北小学校4年生からの礼状



理事長、エフエムびざん (B-fm791) ラジオ出演



3月19日11時から、稲次理事長がラジオ出演しました。

各ジャンルで、エキサイティングに活躍している「旬の人」をゲストに迎え、とってお

きの音楽とお話を聞くトーク番組、B-STEP TALKING にお招きいただきました。パーソナリティは、ドレミファ曾谷さん、お話の主な内容は、南部へき地診療、春山満さんとの出会い、グループホーム親の家での生活、ターミナルケアのあり方、プライベートタイムの過ごし方等でした。皆さん、理事長の趣味は旅行で、飛行機に乗ることが大好きって知ってましたか？

特別養護老人ホーム藍寿苑 施設長 秋山 郁恵



徳島マラソンで、徳島新聞に載りました

ショートステイ員の職員 齒朶尾 美里さん

3月25日に「とくしまマラソン2018」が開かれました。以下、2018年3月26日徳島新聞からの抜粋です。

双子ランナー、齒朶尾 美里さん(24) 采佳さん(24)は、前回大会に続いて2回目の出場。8回目のベテラン、母優子さん(46)と共に出場したが、けがなどで力を発揮できず、次回大会での再起を誓った。

2人は前は5時間余りで完走した。しかし、本番前の練習で右足をけがした采佳さんは17キロ付近で痛みが激しくなり棄権、美里さんもレース

の途中で右足首を痛めて記録が伸びなかった。

采佳さんは「来年は絶対に完走する」と言い、美里さんも「練習を積んでもっとタイムを縮めたい」。4時間を切るタイムでゴールした優子さんは「2人ともよく頑張った。共にけがを乗り越え、力を付けてほしい」とねぎらった。



美里さん②と采佳さん①をねぎらう母

■新入職員紹介 2017 年 12 月～ 2018 年 4 月初旬まで

社会医療法人



看護部 看護師
中村 愛



看護部 准看護師
橋本 朋奈



看護部 准看護師
黒住 かおり



看護部 看護師
田原 朱莉



看護部 看護師
柏木 美紗樹



看護部 看護師
藤本 窓花



看護部 介護職員
光地 直樹



看護部 准看護師
高野 勝利



薬剤科 薬剤師
中瀬 真理



栄養課 管理栄養士
益井 綾香



栄養課 管理栄養士
後藤田 結香



連携室 社会福祉士
丸岡 妙子



リハビリ部 理学療法士
追谷 海斗



リハビリ部 理学療法士
小井田 有沙



リハビリ部 理学療法士
服部 瑞輝



リハビリ部 理学療法士
松浦 涼太



リハビリ部 理学療法士
月岡 直規



リハビリ部 作業療法士
丸岡 直輝



昂 介護補助者
芝 彰



昂 介護補助者
岡 生子



昂 介護補助者
本村 明子



昂 介護補助者
辻本 洋子



昂 介護補助者
四宮 愛子



昂 介護補助者
湊 佐知子



昂 介護補助者
笠井 千代美



昂 社会福祉士
原田 夏紀



昂 介護福祉士
船戸 美佑



昂 介護職員
森本 絵里



昂 准看護師
井上 玲子



親の家 介護福祉士
森本 香織



親の家 介護職員
安藝 和美



デザイン万代町 介護職員
細川 飛鳥



デザイン万代町 管理栄養士
井原 未紗子



名東の家 介護福祉士
渡邊 彩乃



名東の家 介護職員
射場 和美



名東の家 ヘルパー2級
小山 はるみ



名東の家 介護職員
川真田 順子



病院 医事課 事務職
小林 唯衣



社会福祉法人



凌雲ヘルパー 介護職員
宮井 満



障がいデイ 生活支援員
岡本 奈津美



障がいデイ ドライバー
楠瀬 浩史



メロディー 看護師
岡 亜矢子



デイ藍 看護職員
坂東 節子



支援センター ソーシャル・カ
田村 野乃花



藍寿苑(入所) 介護職員
安岡 采香



藍寿苑(入所) あん摩
中川 美代子



新しい稲次病院



稲次病院 院長 湊 省

ここ何年かにわたり継続してきた病院の増改築工事が昨年8月に終わり、新しい病院が完成しました。広いゆつ

くりした待合室を中心とした機能的な1階外来ブリスや2階回復期病棟の開放的リハビリテーションブリスなど将来の医療に対応した施設となりました。

又2018年1月1日よりへき地医療の貢献を評価され、社会医療法人に認定されました。

社会医療法人には公共性が求められます。へき地医療はもちろんです。私たち稲次病院が最も果たすべき医療機能はどれだけこの地域において、その医療ニーズに応えるかということであり、それは地域に密着したものでなければなりません。

従来当院がエネルギーギッシュにおこなってきたリハビリテーション医療を中心として、高齢化の進行とともに増加してくる大腿骨近位部骨折を中心とする四肢骨折や脊椎骨折に対する迅速で的確な対応、変形性関節症や脊柱管狭窄症などの脊椎疾患、スポーツ障害を中心



とする子供の運動器障害、呼吸器疾患や循環器疾患、糖尿病などを中心とする内科的疾患、そしてこの国の人口分布と高齢化の進行から今後25年間は避けることのできない認知症や終末期医療などの増加への対応と多岐にわたる医療が求められています。またこれらに對し予防を含めた地域への啓蒙活動もますます重要となるでしょう。

入院病床67床の中小病院である稲次病院がこれらの医療ニーズに対応していくためには地域医療機関との連携と共に、凌雲会グループ各施設の緊密で機能的かつ迅速な連携が必須の要件になります。凌雲グループ各組織が結束して機能すれば将来にわたり極めて大きな力をこの地域において継続して発揮することが可能です。

稲次病院は凌雲グループの核として、この地域においてなくてはならない病院として認識される存在になるよう努力したいと思います。まさにそれは地域密着の小規模多機能型の医療機関といえるのではないでしょう。

寄贈

ありがとうございます

- 木南 シズコ様ご家族より車椅子寄贈頂きました。《グループホーム親の家》
- 魚住 良子様より家具調ポータブルトイレセレクトを寄贈頂きました。《メディション凌雲》
- 藤原 敏昭様よりシャワーチェアを、藤井 智慧様よりおむつを頂きました。《昂居宅》
- 市原 薫様より車椅子2台、車椅子用クッション2個を寄贈頂きました。《介護老人保健施設昂》
- 3月16日公益財団法人日本財団様より福祉車両(セレナ)1台をご助成頂きました。《障がい者デイセンター凌雲》

凌雲グループ
スタッフの

♪ ご結婚・ご出産 おめでとうございます♪

2017年11月～2018年3月分



▼ご結婚

◎3/16

親の家 秋山 康輔

◎3/30

昂 介護職員

西窪 優斗

▼ご出産

11/27

藍寿苑

新居 徹

女児

2/9

ショートステイ昂

鳴石 由季

男児

3/20

昂 入所

栗本 恵里

女児

3/23

リハビリ部

四宮 智紀・優

女児

3/30

昂 介護職員

安芸 悠子

女児



編集後記

花の盛りも過ぎ、日中は少し汗ばむほどの季節となりました。皆さん、水分補給をしっかりと行い、体調管理に努めましょう。

広報委員会 豊川 友美

